

## 第3回円城寺次郎記念賞決まる

2012年12月2日発表

日本経済新聞社と日本経済研究センター共催の第3回「円城寺次郎記念賞」(2012年度)の受賞者は以下のように決まりました。

《受賞者》賞（賞金100万円および副賞として記念品を贈呈）



大橋 弘 (おおはし ひろし) 氏  
東京大学大学院経済学研究科教授



田中 知美 (たなか ともみ) 氏  
アリゾナ州立大学助教授

審査委員長から

### 混乱期に確たる思想

一橋大学名誉教授 今井 賢一

円城寺さんは現在の日本経済新聞社を「経済に関する総合情報機関」に発展させた名経営者であり、世界の経済学者との交友も深く、日本経済研究センターの設立等を通じて日本の若手研究者の育成にも大いに尽力された。本賞は同氏のアントレプレナーシップを継承すべく、日本の若手気鋭の経済学者を顕彰するユニークな制度である。

第3回目の今年は何れも（せんえつ）ながら私が審査委員長をお引き受けした。最初は正直なところ、この賞の選考基準、すなわち、経済理論の分野で独創性を発揮し、かつ内外の経済動向を深く洞察して政

策に示唆を与えているエコノミストという厳しい基準をみたす若手を果たして探し出せるのかと、やや不安の思いがあった。

ところが蓋を開けてみると、問題はむしろ逆で、事務局の努力もあり、前述の厳しい基準を十分に満たしている45歳以下の研究者が15人も見つかったのである。私はその業績リストと、事務局が熱心に集めた彼らの論文、政策発言等のファイルを読んでいるうちに、日本の知的エリートの将来は実に頼もしいという確信を持つに至った。

そこで、受賞者お二人の仕事を紹介しながら、その明るい希望を述べてみよう。

大橋弘さんの仕事は「太陽光発電買い取り制度」「農地の転用機会の影響」「アメリカにおける大型オートバイに関する関税政策」など多岐にわたるが、一貫して産業政策の焦点分野に正面から立ち向かい、現実をよく観察して分析枠組みを作り、モデルに適した推定方法を工夫し、必要なデータを丹念に探し出す。

格別革新的な方法というわけではないが、良質な理論と計量分析が柔軟に駆使されているだけに、その政策発言にも汎用性がある。私流に言えば、古い産業組織論が柔軟に創造破壊されているわけで実に頼もしい。

一方、田中知美さんは行動経済学、実験経済学という新しいフィールドを活用して、「実際生活上の実験」で実に有用な成果をあげた。私が特にその意義を強調したいのは、被験者のホームレスが貯蓄意欲を持つようになり、その後自力でアパートを借り、高貯蓄率を続けてホームレスから脱却しつつあるという事実である。

かつてケインズは「世界を支配しているのは、思想以外にない。自分は現実的で、どんな思想からも影響を受けていないと信じている者も、実は亡き経済学者の思想に支配されている」という趣旨のことを述べた。

現代のような混乱期には思想は不可欠である。しかし、その思想は、受賞者のお二人が試みたような超綿密な現実観察や新たな実験の成果を踏まえたものでなければならない。お二人を含めた新世代の今後の活躍を大いに期待したい。

\*本文中の「審査委員長から」「第3回記念賞に輝いた2氏の横顔」は、2012年12月2日付日本経済新聞朝刊（特集面）から転載しています。

## ▼本賞の目的

経済理論の分野で独創性を発揮、あるいは経済理論を応用して現代経済の実態を鋭く分析、内外の経済動向を深く洞察し、経済政策や企業経営などに有益な示唆を与えた若手・中堅の学者・エコノミストを顕彰する。

## ▼審査委員

- 【委員長】 今井賢一 一橋大学名誉教授
- 【委員】 藤田昌久 経済産業研究所長
- 岡崎哲二 東京大学教授
- 松井彰彦 東京大学教授
- 浦田秀次郎 早稲田大学教授
- 平田保雄 日本経済新聞社会長
- 杉田亮毅 日本経済研究センター会長
- 岩田一政 日本経済研究センター理事長

(順不同)

 えんじょうじ じろう  
**円城寺 次郎**


日本経済新聞社元社長  
 日本経済研究センター初代理事長

1907年生まれ。33年早稲田大学卒業、中外商業新報社（日本経済新聞社の前身）入社。46年編集局長、56年主幹などを経て、68年～76年代表取締役社長。雑誌「日経ビジネス」や日経流通新聞、日経産業新聞の創刊、新聞制作のコンピューター化によりデータベース事業展開の基礎を築き、日本経済新聞社を「経済に関する総合情報機関」に発展させた。76年～80年同社会長。経済審議会会長をはじめ多くの政府審議会会長を務める一方、内外美術の紹介に力を注いだことでも知られる。

編集局長当時から経済に関する研究機関設立の構想を温め、1958年に日経社内に「経済研究室」を立ち上げた後、学界、経済界、官界の協力を受けた独立機関として63年12月、日本経済研究センターを設立した。64年4月に大来佐武郎氏を理事長に招聘するまで初代理事長を務めた後、理事としてセンターの運営に貢献。センターは民間シンクタンクの草分けとして、若手の経済学者、エコノミストが集い、活躍する舞台となった。82年～87年センター会長。94年3月14日死去。